

(1) 給水スポットの設置について



○ 脱プラスチックの取組の一環として、ペットボトルごみの排出を抑制するとともに、ペットボトル水の利用からマイボトルによる水道水の飲用利用へのライフスタイルの転換を促進していくため、設置型の給水スポット「水色スイッチ」及び移動型の給水スポット「水色スイッチポータブル」を製作しています。

大阪市を代表する観光スポットに計6台設置

移動型給水スポットを4台製作

【大阪城公園内3か所】



(写真は MIRAIZA OSAKA-JO)

【天王寺動物園内】



そのほか、水道記念館と大阪市役所に1台ずつ設置しています。

【イベント時の様子】



(令和3年度から実施)

本市主催のイベントにブースを出展しています。



令和6年度の取組（経営戦略関連）

水色スイッチ

- 令和6年度は約91 m³の利用実績がありました。
- これは、500mlのペットボトル換算で約18.2万本分利用されたこととなります。

水色スイッチポータブル

- 大阪市の区民まつりのうち15区に設置し、約8,000人に利用いただきました。
- そのほか、大阪市環境局主催の環境イベント「ECO縁日」など、5件のイベントにも設置し、多くのお客さまに利用いただきました。



【港区民まつり】



【環境イベント ECO縁日】

(2) 減量化・適正処理の推進

① 浄水発生土の有効利用・減量化



- 浄水場で排水処理工程から発生する浄水発生土は、産業廃棄物として位置づけられていることから、その減量化を図るために、これまで有効利用の推進や発生量の減量化に取り組んできており、**平成25年度には有効利用率100%を達成**しました。
- 今後も浄水発生土の有効利用率100%を維持するために、より安定的な有効利用の検討に取り組み、民間事業者と連携を進めていきます。

浄水発生土の有効利用率

- 平成22年度まで
主にセメント原料、園芸用土、保水性舗装材などに利用し、**50%程度で推移**
- 平成23～24年度
有効利用率の向上及び処分コストの削減を図るため民間事業者と連携し、事業者が保有する技術、アイデアを活用し埋め戻し土等に有効利用することで有効利用率が向上
- 平成25年度から現在
有効利用率100%を達成

【排水処理施設】



② 建設副産物リサイクル（再生アスファルト及び再生砕石）



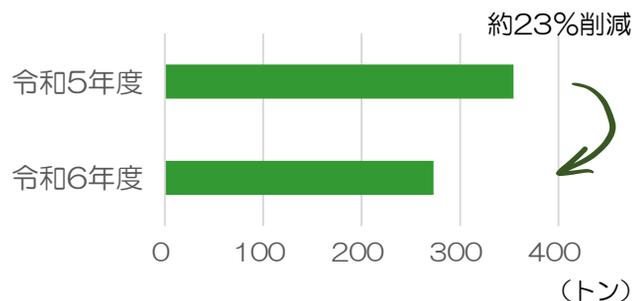
- 水道管は道路の下に埋めることが多く、工事に伴い発生する建設副産物には、産業廃棄物であるアスファルト塊、コンクリート塊が含まれ、これらは再資源化等を義務付けされた特定建設資材廃棄物に当たります。
- 特定建設資材廃棄物については、平成14年度から再資源化施設に搬出し、リサイクルしています。
- また、工事に使用するアスファルトや路盤材料（一部除く）は、再生品を使用しています。



令和6年度の取組（経営戦略関連）

廃棄物排出量

- 大阪市市内環境管理計画に基づき、事業所別・項目別に廃棄物排出量を調査しました。
- 各種廃棄物の排出抑制の取組を進めてきた結果、前年度と比較して、約23%削減されました。



(3) ペーパーレスの取組み

日常の事務業務において、公文書の電子化や、会議・打ち合わせのペーパーレス化を推進しています。その一環として、モニターを導入をするなど紙の使用量削減に取り組んでいます。

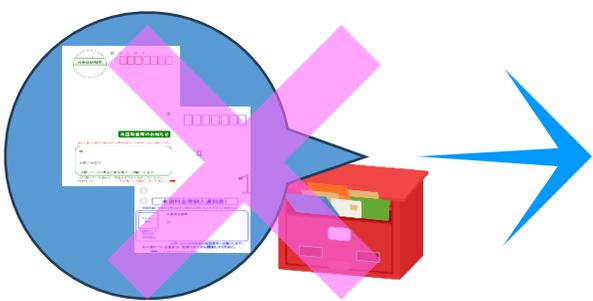


【ペーパーレス会議】

📷 令和6年度の取組（経営戦略関連）

マイページ運用開始

- 令和6年1月の**お客さま専用サイト（マイページ）**運用開始に伴い、マイページ上で使用水量や料金等を確認できるようになったため、同年6月から「料金等のお知らせハガキ」の送付を廃止しました。
- 令和7年1月に納入通知書を電子化し、ご希望のお客さまはマイページ上で支払手続きを完結できるようになりました。



ご使用水量・料金等のお知らせ

水道料金等のお支払い



紙の使用量・購入量

- 各職場における複合機での印刷枚数を水道局内のポータルサイトにおいて公表し、前年度比で紙使用量が増加している職場に、改めて紙使用量削減の推進を意識してもらえるよう取り組んでいます。
- 様々な取組の結果、令和6年度の紙の購入量は、経営戦略の基準年度である令和2年度と比較して、約36.6%削減されました。

【紙の購入量】



【職員に向けた紙使用量削減の意識高揚】

■ 大阪市水道経営戦略（2018-2027）【改訂版】

成果指標と2027年（令和9年）度末の目標

コピー用紙使用量（A4購入換算）の削減：令和2年度の使用量比5%減



紙使用量削減の推進

- 1 印刷の初期設定を両面コピーに！
用途に応じて2アップ印刷も。
- 2 パソコンモニターを活用しましょう！
自席にない方は近くの人でお試しを。
- 3 ペーパーレス会議を徹底しましょう。
印刷する場合は必要な箇所だけ！



印刷する前に**本当に必要か**を確認しましょう

4 快適な都市環境の確保

（1）自然との共生・生物多様性保存の推進

① 都市景観の保全と創造



○ 浄水場では、周辺の自然環境や景観との調和を保つために、樹木の育成・管理を積極的に行っています。

【柴島浄水場】

（3浄水場合計：約7万本）



（2）気候変動やヒートアイランド現象による暑熱環境悪化への対策

適応策の推進 水道局ではクーリングシェルターを4カ所設置

近年、地球温暖化やヒートアイランド現象により気温上昇が顕著で夏の猛暑から市民の命を守るため、本市では令和6年7月以降、熱中症特別警戒アラート発表時に暑さをしのげる場としてクーリングシェルター（指定遮熱避難施設）を指定しています。当局においても「東部水道センター」「水道記念館」を指定しており、また、民間施設と協定を結び「くにじまテニスコート」「くにじまスポーツ」も指定しています。



(3) 都市環境の保全・改善の取組み（水環境）

① 関係自治体との広域的な連携の促進



○ 水道局では従来から、淀川から取水する水道事業体で構成する「淀川水質協議会」を通じて、淀川の水質保全を目的とした様々な活動や調査研究（※）に取り組んでいます。

（※）水源水質監視をはじめ、水質に関する上流団体及び政府関係各省への要望活動など

② 水環境の監視モニタリング

ア 水質管理研究センターによる水質の監視

- 安心して飲めるきれいな水をお客さまへお届けするために、徹底した水質管理を行っています。
- 全国で初めて水道水質検査優良試験所規範（水道GLP）の認定を取得した水質管理研究センターにて、水道水質検査の精度を確保しながら、水質検査を行っています。
- 水源としている琵琶湖・淀川の水質をはじめとした水質監視の取組みは、水道水の安全性の確保だけでなく、琵琶湖淀川水系の水環境保全に対して大きな役割を果たしています。



微生物試験



官能試験



最新精密分析機器による試験

水質監視

- 115種類の農薬を含む約200種類もの項目について、水源としている琵琶湖・淀川の水質を監視
- 水源への影響が懸念される下水処理場の放流水や事業所の排水を定期的に調査
- 市内に設けられた39箇所の水質遠隔監視装置により、水道水の水質を24時間連続的に監視

水質検査

- 水道水質基準の51項目に、独自で測定している項目を加え、浄水場・給水栓（蛇口）において合計で220項目を超える水質項目について検査

イ 多様化する水質問題への対応

- 今日の水環境を取り巻く問題は、多様化・複雑化の一途をたどっています。
- このような問題に対しては、水源環境中での実態や浄水場での処理性といった調査を他に先駆けて取り組むことで、水道水に対するお客さまの漠然とした不安を解消し、安心してご利用いただけるよう努めています。
- こうした対応を着実にを行うことは、大切な水源の水質を守り、より良質な水環境を創造していくことへとつながっています。



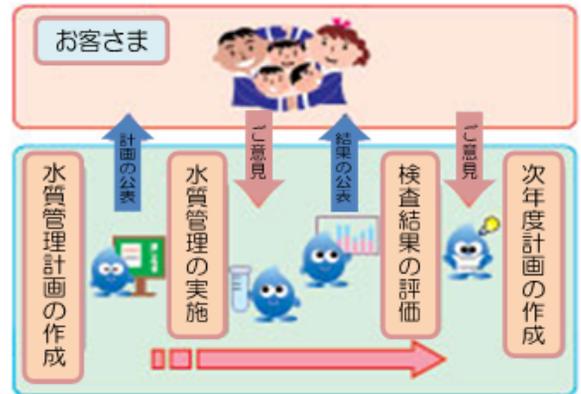
ウ 大阪市水道・水質管理計画



- 水質管理研究センターでは、水源から浄水場、給水栓（蛇口）に至るまで、さまざまな検査・調査を行っています。これら水質検査を行う場所、項目、回数などを「大阪市水道・水質管理計画」としてまとめ、ホームページなどを通じて公表しています。
- 本計画には水源水質の状況やその特徴など様々な情報が含まれており、水環境保全活動を行っていく上でも、重要な情報源になるものと考えています。



大阪市水道・水質管理計画の構成



大阪市水道・水質管理計画の運用

（※）水道局の水質検査体制や水道水質管理に対する考え方を広くお客さまにお知らせすることにより、さらに安心して水道水を利用していただくことを目的として行っています。



【新水質管理研究センター（※）の完成イメージ】

（※）水質管理研究センターの建替えを行い、より確実かつ高度な水質分析環境を有する体制に移行するとともに、ICTを活用した水質管理データの一元管理化を図ります。

【新体制への移行：令和8年度から実施、水質管理データの一元化：令和9年度から実施】